

事業報告

令和4年度信州高遠青少年自然の家教育事業 「たかとお森の楽校」

令和4年6月25日(土)～26日(日)
【対象】小学校4年生～6年生
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

当施設は、森に囲まれた施設であり、様々な動物や野鳥などを観察することができる。森は私たち人間のみならず、多くの生き物の暮らしを支えている。そこで、森での体験をするとともに森の役割や大切さ、森にすむ生物の多様性について学ぶ機会とする。森林 ESD を通して次代を担う子どもたちを対象とした事業を実施する。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和4年6月25日(土)～6月26日(日)

(2)参加者 28名

(3)日 程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
6/25 (土)					受付	開 会 式	グループ活動 野外ゲーム	お 弁 当	樹木巡り	樹木の香り成分の抽出 香料スプレーづくり		荷 物 移 動	夕 食	入 浴	森の生物 観察① <ライトトラップ>	就寝 準備	就 寝
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
6/26 (日)	起 床	森の生物 観察② <野鳥観察>		野 外 調 理	清掃 荷物整理	森の生物 観察③ <水生生物観察>	昼 食		閉 会 式	解 散							

3. 企画運営のポイント

- ・1日目の夕方までのプログラムは、樹木のことを知り、樹木の変った活用方法として香料スプレーづくりを行うことで、森や樹木、樹木の香りについて興味を持ってもらえるよう考えた。
- ・1日目の夜から2日目にかけてのプログラムは、森の中に棲む生物の多様性を実感する活動として、3種類の自然観察プログラムを実施した。そして最後に、森の植物・動物を含め、それぞれが互いに関係しながら成り立っていることについて説明した。

4. 参加者の声（一部抜粋）

- ・ みんなと協力して多くの物・ことを見つけれられて、緊張したけどみんなと仲良くなれてよかった。（野外ゲーム）
- ・ ビンゴではみんなで力を合わせてほしい全部ビンゴになれた時に「くやしいけど達成感があったな」と思えたのでよかったです。（野外ゲーム）
- ・ 自分好みのスプレーの香料ができたのでよかったです。さらに、クロモジについても色々と分かったので楽しかったです。そしてみんなの香料も楽しめたので、リラックスでき、落ち着きました。母・父にも見せて実用化したいです。（樹木スプレーづくり）
- ・ 蛾はズットいやなイメージしかなかったけど、住んでいるところの色や模様似せていることが「すごいな」と思いました。（ライトトラップ）
- ・ 探すのが少し難しかったけど、多くの鳥に出会えたし、詳しくなれた気がしたのでよかったです。（野鳥観察）
- ・ セキレイなど、おうちの周りに来ている鳥が結構いたが、さえずる時にすぐ口を開けていたのでびっくりした。（野鳥観察）
- ・ またつくってみたいと思うぐらい美味しかった。（野外調理・カートンドッグ）
- ・ 水の中にいる生物はだいたいカエルや魚だと思っていたけど、この体験でいろんな生物がいることがわかりました。その中にはヒルなどもいて、びっくりしました。少し苦手だった種類の虫が苦手ではなくなった気がしました。（水生生物観察）
- ・ はじめは触れなかった水生生物がいたけど、最後は触れるようになった。（水生生物観察）

5. 事業中の様子

【野外でビンゴ①】



【野外でビンゴ②】



【樹木巡り】



【香料スプレーづくり】



【ライトトラップ①】



【ライトトラップ②】



【野鳥観察①】



【野鳥観察②】



【朝食（カートドッグづくり）】



【水生生物観察①】



【水生生物観察②】



【記念撮影・全体写真】



6. 成果と課題

(1)アンケート結果 回収 28 名（回収率 100%）

事業全体を通して	満足：26名	92.9%	やや不満：0名	0%
	やや満足：2名	7.1%	やや不満：0名	0%

(2)成果と課題

- 本事業は地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業（特色化事業）として位置づけており、プログラムに、樹木、昆虫、野鳥、水生生物の観察、体験学習を盛り込むことにより、より自然を身近に感じることができ、森が多くの生き物の暮らしを支えていることを実感できるプログラムとなった。
- 最初のグループ活動で「森のビンゴ」を取り入れたことにより、班ごとに野外を歩き回り、仲良くなることができ、アイスブレイクの役割を果たすことができた。
- 「香料スプレーづくり」は想像していた以上に参加者にとって特別な体験でありとても好評であった。調合したスプレーの香りを互いにかいで確かめ合ったり、自分の持ち物に香りを付けたりする姿が見られた。
- ライトトラップ、野鳥観察、水生生物観察では、当施設だからこその様々な生物に触れることができ、生物の多様性を感じることができた。
- 特色化事業として、参加者は自然体験活動を体験できて満足しているが、それで終わりではなく、体験したことに関わる調べ学習を通して、参加者自身が自然環境についての課題意識を持ち、自身の関わり方を見つめることができるプログラムを編成することが必要である。
- ライトトラップは昆虫類に詳しい当施設職員に指導支援してもらい、香料スプレーづくり、野鳥観察は指導員をお願いした。指導員をお願いすることで、事業担当者は参加者のそれ以外の対応ができることから、それぞれの研修では指導員に指導を依頼していくようにしたい。また、一貫性のあるプログラムを推進するために、指導員との連絡を密に行う必要がある。
- 参加者数に対してボランティアの人数が少なかった。今回は男性ボランティアが1名だったため男性利用者への対応が不十分であった。参加者の男女比、年齢構成、特別な支援の必要性等実態に即したボランティアの人数の決めだしや依頼、役割分担などについて検討したい。